

第 1 回川上ダム S W G 会議 (2004.8.3 開催) 結果報告		2004.8.15 庶務発信
開催日時 :	2004 年 8 月 3 日 (火) 9 : 00 ~ 18 : 00	
場 所 :	木津川上流地域および木津川上流河川事務所 3 階会議室	
参加者数 :	S W G メンバー委員 6 名、 S W G メンバー外委員 5 名 河川管理者 17 名	
<p>1 実施概要</p> <p>現地視察 9:00 ~ 15:50</p> <p>意見交換会 16:00 ~ 18:00</p> <p>2 視察の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00 J R 木津駅集合 ・ 9:50 ~ 11:00 岩倉峡の状況視察 (徒歩) ・ 11:00 ~ 12:30 上野市周辺の代替案 (遊水地、越流堤等) を視察 ・ 13:00 ~ 13:40 木津川上流地域の代替案 (遊水地、ため池等) を視察 ・ 13:40 ~ 14:50 川上ダムサイトおよび上流域の視察 ・ 14:50 ~ 15:20 川上ダム工事事務所からの説明及び桐ヶ丘団地の視察 ・ 15:50 木津川上流河川事務所到着 <p>3 意見交換会の概要</p> <p>木津川上流河川事務所到着後、視察をもとに委員および河川管理者との間で、意見交換が行われた。視察の感想について</p> <p>意見交換会の冒頭に、各委員より視察の感想が述べられた。主要な、意見・感想については、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代替案は、できるものについて優先順序を付けていくことが必要である。 ・ 上野盆地の家屋浸水の軽減が最大の目的であり、このための仕組みについて原点から考えていくことが必要である。 ・ 上野盆地は、川上ダム + 遊水地のみで水害を防ぐのは無理であり、服部川、柘植川についても積極的な治水対策を行うことが必要である。ダムはやむを得ない場合以外は、造らない方がよい。 ・ 遊水地は、農家や住民から見て本当に受け入れられるのかどうか考えさせられる。 ・ 農地を新たな遊水地として活用するためには、土地利用規制や農業側からの対応も重要である。 ・ 遊水地については、合理的な対策であり、地域の合意の上で整備する必要がある。 ・ 遊水地については、むしろ「洪水調整地」といった形で積極的に位置づけ、効率が上がる方向を考えていくことが重要である。 ・ 可能性としてダムを造らないとすれば、放水路が実現すれば最も効果が高いと感じる。 ・ 放水路については、大規模工事は避ける上では、積極的に賛成はできない。 ・ 代替案については、机上ではなく現地踏査を行い、真剣に検討してもらっていることを感じた。 ・ ボーリング調査などの結果については、わかりやすく説明することが必要。 ・ 代替案を検討している時期に、実際に現地を確かめることは、意義のあることだと感じる。 		

- ・豊かな自然を、ダムに沈めて良いのかと言うことが、素朴な疑問として感じられる。
- ・猪名川流域と比べると、木津川の方が対応の可能性が高いと感じられ、災害に強いまちづくりを
実践してほしい。

河川管理者との意見交換

各委員からの感想が一巡した後、河川管理者からの発言も行われ、質疑がやり取りされた。主要な、意見・感想については、以下のとおり。(注 〃は委員、 〃は河川管理者の発言)

- ・新たな遊水地という考えは、当該地域の関係者から反発を受けることもあり、すべてが遊水地という考えで調整を図っていくことが必要である。
- ・校庭貯留については、周りが水田である学校では効果が期待できない。ため池については、実際にどれだけためられるか疑問である。休耕田については、少しでも活用すべき。
代替案については、精度を上げるように努力したい。また、実効性にも留意したい。さらに、中間報告でも示したとおり、今後7つの観点(効果、 環境への影響、 施設管理者の協力、 用地取得の見通しを含む工期、 産業活動への影響、 維持管理、 コスト)による評価を早急に進める必要があると考えている。
- ・魚道の遡上率が芳しくないようなので、全体的に総点検する必要があると考えられる。
- ・流域にはゴルフ場や新興住宅地多いので、シミュレーションの中でもチェックする必要がある。
ゴルフ場等については、今後どう反映すればよいか検討していきたい。
- ・ゴルフ場については、排水抑制機能を担わせるという考えも必要であろう。
- ・水田に関しては、畦の嵩上げは農家の理解を得ることは難しいのではないかと。嵩上げではなく、排水方法を変えることにより、出水を遅らせることも可能である。
- ・農地の整備にはお金もかけており、関係者との調整が重要である。
代替案の実現については、地域の権利を考えていくことは重要であると認識している。
- ・代替案の評価について、現状では定量的な説明に徹している感がある。
今日は現地での説明用として定量的な話が中心となった。他についても提示し、議論頂く予定。
ワーキングできちりとした議論を行うためにも、委員間でも意見を確認してもらいたい。
- ・検討課題については、委員会内部で検討してから、河川管理者に投げる必要があると考えられる。
代替案については、当然明らかにだめなものもあると考えられる。このようなものについては、委員会として適切なセッションをいただきたい。
- ・10月にはWGの意見を集約する必要があるため、最終的な検討結果が出ないことを想定し、検討を進めざるを得ないが、なるべく検討結果をWGへ提示できるよう努力をお願いしたい。
河川管理者としては、先に触れられた評価の 〃 を的確かつ早急に出していくことが重要であると
考えている。
- ・今後、WG内部でも、河川管理者との対話時間と同じくらい時間をかけて、検討を行う必要がある
と考えられる。

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。